

## B 湯ヶ島〜三島

馬車と軽便鉄道の旅

洪作は、『しろばんば』・『夏草冬濤』を通じて、湯ヶ島と三島の間を何度も往復しています。当時は、湯ヶ島から大仁まで馬車で四時間（洪作が六年生の時バスが開通）、大仁駅から旧三島駅（現御殿場線下土狩駅）まで駿豆線の軽便で約二時間、計五時間もかかりました。その後、駿豆線は大正十三年に修善寺駅まで延長されました。現在は、湯ヶ島から修善寺まで路線バスで二十五分、修善寺駅から東海道線三島駅まで伊豆箱根鉄道で三十分、計約一時間で快適な旅ができます。伊豆箱根鉄道に乗って大仁駅で途中下車するもよし、狩野川を眺めながら気ままにドライブするもよし、洪作の旅情に思いを馳せつつたづなってみましょう。

### 6 田園風景の中を走る電車

洪作は、軽便鉄道の車窓から冬枯れた田んぼが広がるのを眺めました。現在、沿線は都市化が進みましたが、原木駅から三島駅の間にはまだ、田園風景が広がっています。



### 5 伊豆長岡駅（長岡駅）

洪作が三津の親戚の家に行く時に降りた駅です。大正八年に伊豆長岡駅と改称されました。現在は駅舎も立派に建て替えられ、伊豆の有名な温泉場の駅としてにぎわっています。



### 4 電車から見える狩野川

電車から狩野川が見えるのは、当時も今も、伊豆長岡駅〜田京駅間の、鉄道、国道、狩野川が急接近する地点のみです。電車からも見えますが、国道からの方が更によく見えます。



### 2 大仁橋

洪作は小学校の頃、大仁橋を馬車で渡り、馬車の上から橋の下のだんよりと濃い緑色の淵を覗きました。鉄橋の2つのアーチのうち、大仁側のアーチは当時のものであり、今も「大正四年 横河橋梁製作所」というプレート（下写真）が付いています。



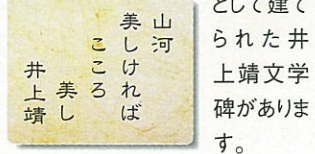
### 3 大仁駅

大仁駅は、当時は軽便の発着駅で、馬車の起点ともなっており、大変にぎやかな駅でした（上写真）。現在も、駅前のロータリーが他の駅より広いのですが、これは、かつて馬車が方向転換をした名残です（下写真）。背後にそびえる山は城山で、洪作もこの山を眺めつつ軽便に乗ったのではないのでしょうか。駅長室には、昔の駅の様子が見える写真コーナーがあります。



### 1 修善寺工業高校文学碑

井上靖は昭和31年に、依頼されて修善寺工業高校の校歌を作りました。また、校舎前の植え込みには、創立30周年記念（昭和40年）として建てられた井上靖文学碑があります。



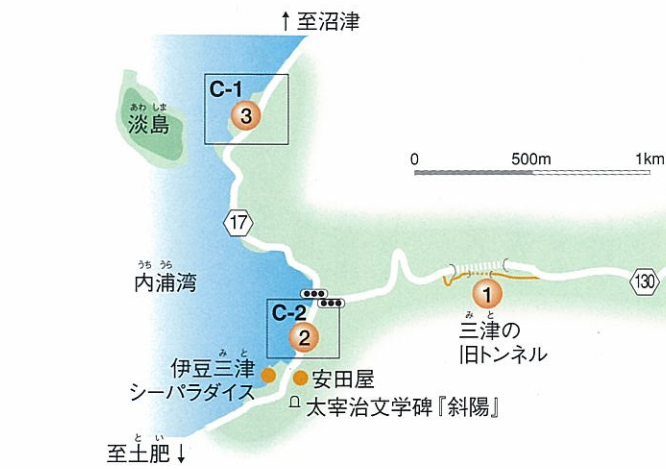
「しろばんば」より、大仁へはいると、ここは洪作にとっては全くの異郷であった。湯ヶ島の新道より賑やかな通りがかなり長い間続いており、湯ヶ島の子供たちよりずっと都会的な顔を持ち、そして時々きれいな服装をしている子供たちが、路傍に立っているのが見えた。映画館もあり、商店には店先にのぼりたような旗を出しているところもあった。やがて馬車を出しているところもあつた。ここから軽便鉄道が、伊豆半島の基部にある三島町へと走っていた。四人の乗客は馬車から降りると、駅の小さい待合室へはいって、それぞれぼつとしたようにベンチへ腰を降し、長いこと口をきこうともしなかった。四時間というものの馬車に揺られ続けて来たので、すっかり疲れ果てて、誰も口をきく元気がなくなっていた。

## C 長岡〜三津

日本で一番美しいところ

洪作は『しろばんば』の中で、三津にある叔母の家へ海水浴に行きます。軽便鉄道の長岡駅（現伊豆長岡駅）から一里の山道を歩いて、三津の旧トンネルのあたりで海と三津の集落を眺め、「日本で一番美しいところではないか」と感動しています。また、『夏草冬濤』のラストで、洪作は友人たちと船に乗って伊豆西海岸への旅に出ますが、その途中に立ち寄ったのが重寺の港です。

三津も重寺も自然が美しく、懐かしい風景が残っている場所です。貴重な文化財である三津の旧トンネルとともに、三津・重寺方面を訪れてみましょう。



### C 長岡〜三津 ① 三津の旧トンネル



三津の旧トンネルは、有名な天城隧道より八年も早く、明治二九年に建設されました。天城隧道と同じ石匠の手により、同じ切り石巻工法で作られた美しいトンネルです。昭和三六年に新トンネルが開通してからは通る人もなく放置されてきましたが、最近になってそのすばらしさが見直されてきています。トンネルを出て少し下ったところからは、洪作が感動した風景を望むことができます。

### C 長岡〜三津

#### ③ 重寺

西海岸への旅の途中、重寺に立ち寄った洪作たちは、友人の藤尾の親戚の家に一晩泊ってもらいます。そこは、藤尾のモデルとなった友人藤井の母の実家で、現在は空き地となっていますが、跡地の前の坂道は、石垣と階段が続く懐かしい漁村の風情をよく残しています。階段を上りきったところからは、海と淡島の美しい景色を望むことができ、苔むした石畳の旧道沿いには白山神社や重寺観音などがあります。趣のある雰囲気となっています。



### C 長岡〜三津

#### ② 三津

三津の叔母の家である松村家は、松本家がモデルとなつています。松本家は気多神社の横を奥に入ったところにあり、外から静かに見学し、松本家の右奥の来迎寺には、井上靖が勉強したという観音堂があります。山門から参道を見下ろすと、その向うに美しい海と淡島が望めます。洪作たちが泳いだ三津港は、現在も海水浴場となつていますが、ちどり丸で港内周遊も楽しめます。また近くには、太宰治が『斜陽』を書いた安田屋もあります。

